
学園戦記ムリョウ×フォーゼ戦記ハジメ

ナナシ（仮）

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

学園戦記ムリョウ×フォーゼ戦記ハジメ

【Nコード】

N6157Z

【作者名】

ナナシ（仮）

【あらすじ】

2070年の4月下旬、突然事件が起こった。東京都の上空に謎の巨大物体が出現し、東京都を中心に関東近辺のありとあらゆるネットワークを麻痺させてしまった。そんな中、空から巨大ヒーロー、シングウが現れ、飛行物体をやっつけた。そして翌日の朝、政府の広報官が「えー、宇宙人は、実はいました」と言ったのだ。

宇宙人騒ぎで連日大騒ぎになっている中、一人の転校生が転校してきたのだ。すでに廃れた学生服を着て。その名は統原無量^{スバルムリョウ}。彼との出会いが、僕、村田始^{ムラタハジメ}の運命を大きく変えた。

ムリヨウ君と関わったことで、成り行きでフォーゼに変身した僕は、宇宙人やゾディアーツとの戦いに深くかわっていく。そんな中で、フォーゼの力、シングウの力の秘密が徐々に明らかになる。中学校を舞台としたフォーゼ戦記が今、始まる・・・

第1話「戦記、始まる」(前書き)

初めて書く小説なので、稚拙な点がございますので、よろしく願
いします。

練習として書いたので、本連載はしばらく先になると思います。

第1話「戦記、始まる」

2070年の4月下旬、突然事件が起こった。

東京都の上空に謎の巨大物体が出現し、東京都を中心に関東近辺のありとあらゆるネットワークを麻痺させてしまった。

その間、ビルの屋上で一人の老人と学生服を着た少年が巨大物体を見ていた。

「奴めのんきに情報収集ときたもんだ」

「ずいぶん強引な侵略だな」

「奴らにしてみればこんな未開の惑星など・・・礼儀を尽くす意味はないのじゃろう」

と老人はビールを飲みながら言った。

「地球も見下されたもんだ」

と少年が食べながら言う。

そんな中、空から巨大な白い巨人が現れ、飛行物体を不思議な力で破壊した。

「上には上がったのう」

「荒っぽいけどね」

巨大物体を破壊すると、巨人は消えて花びらとなった。

そんな中、地上から老人と少年をじっと見つめる小型ロボットがいた。

「何を考えているんだ・・・」

そうつぶやきながら・・・

翌日の朝、政府の広報官が「えー、宇宙人は、実はいました」と言い、そのため、多くの人々が宇宙人に関心を持つようになった。御^{ミス}統^{マル}中学に通う少年、村田始^{ムラタハジメ}もその一人だった。数日後、各国政府の宇宙人の機密情報が漏洩されるなど、始のクラスで宇宙人で連日大

騒ぎになっている中、一人の転校生が転校してきた。すでに廃れた学生服を着て・・・

スバルムリヨウ
「統原無量です」

昼休み、校庭で始とクラスメートのジロウ、アツシ、トシオは転校生の無量と話をしていた。

学生服の理由は無量曰く、「じいちゃんからの選別で、どこでも着ていける便利な服だから」らしい。

そんな中、窓から無量を見る一人の中学生の青年がいた。御統中学ミスマル生徒会副会長の一人、守口京一だ。モリグチキョウイチ

昼休み終了のチャイムが鳴ると、5人は生徒総会に行った。

「それでは2070年、5月の生徒総会を始めます」

ツインテールの少女はそうアナウンスした。御統中学生徒会副会長ミスマルの一人、守山那由多だ。モリヤマナユタ

「続いて、生徒会長挨拶」

「はい、宇宙人とか大変ですが大丈夫、ちゃんと体育祭はやります」

「・・・おおー」みず

「新入生諸君も御統中に慣れてきたと思いますので、どんどん発言してください」

そう発言したのは御統中学生徒会長である津守八葉である。ミスマル
ツモリハチヨウ

「それじゃ、お手元のプリントをご覧ください」

「瞬く〜ん！」

「・・・アハハハハ！」

「はい、ありがとう！」

そう呼ばれたのは御統中学生徒会会計である、アフロ頭の少年の守モリハタシユン機瞬である。はっきり言ってムードメーカーだ。最後に御統中学生徒会書記の、控え目な少女の峯尾晴美が御統中学生徒会のメンバーである。生徒たちや生徒会のメンバーはさまざまな発言をして盛り上がったが、京一だけは無量を時々睨んでいた。

「あのさー、なんつーかー・・・その・・・恥ずかしくないの？」

「え？ああ、服かい？」

「ま、いいけどね」

下校途中、始と無量は話をしていたが、始は少し学生服が不思議なようだ。

「村田君は部活とかしないの？」

「まあね、統原君は前の学校で何やってたの？」

「んー、いろいろ」

「いろいろか、じゃあ、大変だな。うちは部活が盛んだから、来るよ。勧誘が」

と、始が振り向くと、

「とりあえず、俺んちここだからー！」

いつの間にか無量と距離が離れていたことにも驚いた始だったが、

始は家の表札が「真守^{サネモリ}」だということに啞然とした。

夜、始は家族に無量のことを話した。名字が統原なのに真守の家に暮らす理由が分からず、少し詮索しなくなった始だった。始はその後、妹の双葉^{フタバ}とゲームをし、風呂に入った後、宇宙人騒ぎのことを考えながら眠りに入った。周りの人が、大変だという割には落ち着いているという疑問を少し抱えながら・・・騒いでしまっても仕方がないと考えているのが本音だと考えているが・・・

その頃、無量は家でスイッチのようなものを触っていた。

「じいちゃんと真守のばあちゃんとの約束、そしてばあちゃんが俺に託したベルトとスイッチ、運命は今から変化していくのかもな、戦記の始まり・・・か」

そうつぶやき、無量は眠りに入った。

一方、京一は真守の家の前で睨んでいた。

「頑張れ、男の子」

木の上で謎の女性が見ていることにも気付かず・・・

次の日、始は元気に教室へ入ると、無量が京一に連れて行かれたことを知った。その時近くで晴美が始にお願いした。

「お願いです。守口先輩を止めてください！」

場所を晴美から聞いた始は、急いで屋上に向かった。

その頃、屋上で、

「お前、何者だ。お前、あの時あそこにいたな」

京一が睨みながら言った。

「あのとかあそことか、指示語の多い人だな。もうちょっと分かりやすく話したほうがいいよ」

無量は表情を変えずそう言う。

仕方なく京一は、

「この間、東京で宇宙人の侵略ロボットが出た時だ。なぜあんなところにいる」

と返す。

「君もそこにいたのか。奇遇だな。もしかしてロボットの中に乗りながら見ていたのか」

京一はわずかに表情をゆがませ、

「どういづつもりだ！！何を企んでいるんだ貴様らは！！」

「やめろー！！統原君ー！！」

なんとか屋上についた始は、京一が古武道の有段者だということに知っているため、無量が危ないと考え、止めに入ろうとした。しかし・・・

「危ない！！」

と無量が叫んだ。その時、京一から不思議な力を無量にぶつけたが、無量はガードした。

その力の余波で始が吹き飛んでしまった。無量は始の手をつかんで始を助けた。

「何しに来たんだい」

「転校生には親切に。ま、とりあえず学級委員だからね」

無量は京一の目を見ると、

「チカラの大きさはいい線いつてるね。でも、使い方は下手だ」

と、無量は不思議な力を球体にし、それを京一にぶつけたのだ。

「何者だ！貴様！」

京一はそう叫び、

「教えてあげよう。チカラの本当の使い方を」

無量はそう言い、ポケットから2と4の数字が刻まれた、2種類のスイッチを取り出し、京一に向ける。

京一がスイッチを見て驚き、

「貴様！なぜそのスイッチを持っている！」

その様子を見た始はこうつぶやいた。

「何だ、こいつら・・・」

t o b e c o n t i n u e d . . .

第1話「戦記、始まる」(後書き)

感想よろしくお願いします。また、応援よろしくお願いします。次回予告は本連載のときに書きます。いろいろとアドバイスもお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6157z/>

学園戦記ムリョウ×フォーゼ戦記ハジメ

2011年12月21日21時53分発行